



～幸せな学校をみんなで作ろう～

1 「幸せ」の土台となるもの

やってみよう（自己実現と成長）

なんとかなる（前向き 楽観）

ありがとう（つながりと感謝）

じぶんらしく（独立 マイペース）

参考：慶應義塾大学大学院教授 前野隆司

2 ほめること

子供たちの行動や発言などから良さをたくさん見つけて、たくさんほめます。

ほめられるとうれしいものです。やる気がどんどんわいてきます。このことを積み重ねます。しかし、何でもほめればよいということではありません。目的や目標に沿ってほめることが大切です。また、だめなことはだめだと親身になって「叱ること」や「過ちを注意すること」も次にほめることにつながる大切なことです。

3 「幸せ」になるには？

(1) 【学びは世界を広げる】

学びは「幸せ」となるための大きな要素です。学ぶことで世界が広がります。学校では授業や学校生活での学びを大切にします。

(2) 【人のために行動する】

他の人の幸せをつくっていかうとすることは自分の幸せに大きくつながります。「ありがとう」と言えたり、言われたりをみんなが意識して行動できると素敵です。

(3) 【失敗を生かす】

失敗はするものです。当然のこととして受け止め、その失敗を振り返り、考えさせて行動を変えていければいいのです。

(4) 【よかったことを心に留める習慣をつける】

生活の中では幸せなことばかりではありません。嫌なことやうまくいかないこともあります。100%幸せを目指すのではなく、様々な状況を受け入れながら、よかったことを心に留めることができるように価値付けをしていきましょう。

こうした物事の捉え方は、寛容な世の中をつくることにつながるのではないかと思います。

4 7つの視点で幸せな学校をつくります

(1)学ぶ力が身に付く学校

- ①学ぶ姿勢や気付き、振り返りの姿をとらえ、ほめることで「学ぶっておもしろい」と言えるようにします。「見えない学力」
※ほめるために気付きを促す声掛けやしかることも「ほめる」ことにつながります。
- ②ICTを活用して、学びの質を高めます。(一人で学ぶ みんなと学ぶ)
- ③知識・技能(「見える学力」)の定着を図ります。

(2)安全で安心できる学校

- ①いじめをしない、いじめを不快に感じ、行動できる児童を育てます。
- ②苦手さや障がいがあってもがんばる、仲間ががんばっていることを応援できる児童を育てます。
- ③心配なことがあった時、相談できる児童を育てます。

(3)社会性を身に付けられる学校

- ①あいさつ へんじ 感謝の言葉があふれるようにします。
- ②仲間と協力し合って行動でき、みんなのために行動できる児童を育てます
- ③掃除や片付けを価値付けし、自分たちの生活の場を整える力を高めます。

(4)楽しい行事や視野を広げる経験ができる学校

- ①令和6年度を「アートイヤー」と位置付け、アートに親しむ1年にします。
- ②子供たちが活躍できる学校行事をつくります。

(5)学校の取組が分かる学校(教育活動が見える学校)

- ①機会をとらえて、学校での子供たちの姿(社会の中での姿)を伝えます。

(6)保護者(地域)と一緒に参加・参画できる学校

- ①学校でのお子様の姿を参観する機会を設けます。
- ②保護者(地域)が学校の教育活動への支援や協力できる機会を設けます。

(7)特別支援教育を大切にする学校

- ①さくら組(情緒固定特別支援学級)では苦手さと向き合いながら、力を伸ばせるよう支援します。
- ②くわのき教室(特別支援教室)やことばときこえの教室(河辺小学校へ通級)では苦手さと向き合いながら、力を伸ばせるよう支援します。
- ③保護者からの相談を大切にして、一緒に考えます。
- ④多様な個性が認め合える社会をつくるための土台が身に付くよう努力をします。